

第2課 「バビロン時代の指導者ーダニエル」(ダニ1:8-9)

ダニエルは、王が食べるごちそうや王が飲むぶどう酒で身を汚すまいと心に定めた。そして、身を汚さないようにさせてくれ、と宦官の長に願うことにした。神は、ダニエルが宦官の長の前に恵みとあわれみを受けられるようにされた。(ダニ1:8-9)

旧約の黙示(啓示)書であるダニエル書は簡単でありながらも難しい書です。前半部の1章から7章までは、私たちがよく知っているダニエルの夢の解釈の話、金の像を拝まず火の燃える炉に投げ込まれて生きて出てきた三人の同僚の話、陰謀によって獅子の穴に投げ込まれたダニエルの話など興味深く面白い内容がありますが、一方、後半部の8章から最後の章までは理解しにくい様々な幻想と啓示が記録されています。

そのようなダニエル書を見るときに注意すべきことは、ダニエル書を通じて人生の成功ストーリー、特にダニエルの知恵を学ぼうとしたり、ダニエルと三人の同僚のように勝利する信仰生活を学ぼうとしてはなりません。ダニエルは意志を決めて(心を定めて)一生懸命に祈り、勉強して成功の座、高い地位、指導者の座に上がった人ではありません。彼に知恵があったのは、神様がその時代に神御自身の意志を成し遂げるために用いようとダニエルに知恵を与えられたのです。

神はこの四人の少年に、知識と、あらゆる文学を理解する力と、知恵を授けられた。ダニエルは、すべての幻と夢を解くことができた。(ダニ1:17)

ダニエルはこう言った。「神の御名はほむべきかな。とこしえからとこしえまで。知恵と力は神のもの。(ダニ2:20)

ダニエル書の主題は「神様だけが全地の主人である」です。当時、古代の強大なエジプトとアッシリアを倒して最高の強大国となったバビロンが占領した周辺の国々と捕虜として連れて来た人々には、バビロンの王こそ、全世界の主人のように見えたでしょう。しかし、神様はダニエルを通してその当時のイスラエルをはじめ、国々だけでなく今日を生きている私たちにも、創造主の神様だけが全地の主人であることを明らかにしているのです。

神は季節と時を変え、王を廃し、王を立てる。知恵を授けて賢者とし、知識を授けて悟りのある者とされる。(ダニ2:21)

永遠のような世の王たち(ネブカドネツアル、ベルシャツアル、ダレイオス、キュロスを含む自ら王になって生きる神様から離れたアダムの子孫)はすべて廃され、そしてネブカドネツアル

王^{おう}が^み見た^{きょうだい}強^{ぞう}大^{しやう}な^{しやう}像^{しやう}(2章)とダニエルが^み見た^{よんとう}四頭^{おお}の^{けもの}大^{まぼろし}きな^{しやう}獣^{しやう}の^{とお}幻^{とお}(7章)を^{とお}通^{とお}して、これから起^おこ^おる^お強^{きょうだい}大^{くにくに}な^{くにくに}国^{くにくに}々^{くにくに}(メ^{メディア}ディアとペ^{ペル}ルシア、ギ^{ギリ}リシャ、ロー^{ロー}マ)も^{かな}必^{かな}ず^{くず}崩^{くず}れ、歴^{れきし}史^{うらがわ}の^き裏^き側^きに消^きえる^きよう^きにな^きる^きとい^きう^きこ^きと^きです。それ^{かれ}ら^{やぶ}(彼^たら)を^た破^たっ^たて^た倒^{ひと}す^{ひと}「人^{ひと}手^こによ^{かた}ら^{かた}ず^{かた}に^{かた}山^{かた}から^{かた}切^{かた}り^{かた}出^{かた}さ^{かた}れた^{かた}一^{かた}つ^{かた}の^{かた}石^{かた}」、
「人^{ひと}の^こ子^この^{かた}よう^{かた}な^{かた}方^{かた}」は^{かた}ま^{かた}さに^{かた}イエ^{イエ}ス^ス・キ^キリ^リスト^{スト}です。ダ^ダニ^ニエル^{エル}書^{しよ}は^{しよ}そ^{しよ}の^{しよ}う^{しよ}に^{しよ}王^{おう}の^{おう}王^{おう}で^{おう}ある^{おう}イ^イエ^エス^ス・キ^キリ^リスト^{スト}の^こ来^{かん}ら^{かん}れる^{かん}こ^{かん}と^{かん}と、イ^{えい}エ^{えい}ス^{えん}によ^{えい}って^{えん}完^{かん}成^{せい}さ^{かん}れる^{せい}永^{えい}遠^{えん}の^{かん}神^{かん}の^{きろく}国^{きろく}に^{きろく}関^{かん}する^{きろく}記^き録^{ろく}です。

44 この王^{おう}た^{じだい}ち^{てん}の^{かみ}時^{ひと}代^{くに}に、天^おの^{くに}神^{えい}は^{えん}一^{ほろ}つ^{ほろ}の^{ほろ}国^{ほろ}を^{ほろ}起^{ほろ}こ^{ほろ}さ^{ほろ}れ^{ほろ}ま^{ほろ}す。そ^{ほろ}の^{ほろ}国^{ほろ}は^{ほろ}永^{えい}遠^{えん}に^{えん}滅^{ほろ}ぼ^{ほろ}さ^{ほろ}れる^{ほろ}こ^{ほろ}と^{ほろ}が^{ほろ}なく、
そ^{ほろ}の^{ほろ}国^{ほろ}は^{ほろ}ほ^{ほろ}か^{ほろ}の^{ほろ}民^{ほろ}に^{ほろ}渡^{ほろ}さ^{ほろ}れ^{ほろ}ず、反^{はん}対^{たい}に^{はん}こ^{はん}れ^{はん}ら^{はん}の^{はん}国^{くに}々^{くに}を^{くに}こ^{くに}と^{くに}ご^{くに}と^{くに}く^{くに}打^うち^う砕^{くだ}い^{くだ}て、滅^{ほろ}ぼ^{ほろ}し^{ほろ}つ^{ほろ}く^{ほろ}し^{ほろ}ま^{ほろ}す。
し^{ほろ}か^{ほろ}し、こ^{ほろ}の^{ほろ}国^{くに}は^{えい}永^{えん}遠^{えん}に^{えん}続^{つづ}き^{つづ}ま^{つづ}す。

45 そ^{ほろ}れ^{ほろ}は、一^{ひと}つ^{いし}の^{ひと}石^{いし}が^{ひと}人^{ひと}手^{ひと}によ^{ひと}ら^{ひと}ず^{ひと}に^{ひと}山^{やま}から^{やま}切^きり^き出^きさ^きれ、そ^きの^き石^きが^き鉄^{てつ}と^{てつ}青^{せい}銅^{とう}と^{せい}粘^{ねん}土^どと^{ねん}銀^{ぎん}と^{ぎん}金^{かね}と^{かね}を^{かね}打^うち^う
砕^{くだ}いた^{くだ}の^{くだ}を、あ^{らん}な^{らん}た^{らん}が^{らん}ご^{らん}覧^{らん}に^{らん}な^{らん}った^{らん}と^{らん}おり^{らん}です。大^{おお}い^{かみ}なる^{かみ}神^{かみ}が、こ^{のち}れ^{のち}か^{のち}ら^{のち}後^おに^お起^おこ^おる^おこ^おと^おを^お王^{おう}に^{おう}
告^つげ^つら^つれた^つの^つです。そ^{ゆめ}の^{まさ}夢^{ゆめ}は^{まさ}正^{まさ}夢^{ゆめ}で、そ^いの^い意^い味^みも^い確^{たし}か^{たし}です。」(ダ^ダニ^ニ2:44-45)

13 私^{わたし}が^{よる}ま^{まぼろし}た、夜^みの^み幻^{ひと}を^こ見^{かた}て^{てん}い^{くも}ると、見^こよ、人^{かた}の^{てん}子^{くも}の^こよう^こな^こ方^こが^こ天^この^こ雲^こと^こと^こも^こに^こ来^こら^これた^こ。
そ^{かた}の^{かた}方^{かた}は『年^{とし}を^へ経^{かた}た^{かた}方^{かた}』の^{かた}も^{かた}と^{かた}に^{かた}進^{すす}み、そ^{かた}の^{かた}前^{まえ}に^{かた}導^{みちび}か^{みちび}れた^{みちび}。

14 こ^{かた}の^{かた}方^{かた}に、主^{しゅ}権^{けん}と^{えい}栄^{えい}誉^よと^{くに}国^{くに}が^{あた}与^{あた}え^{あた}ら^{あた}れ、諸^{しよ}民^{みん}族^{ぞく}、諸^{しよ}国^{こく}民^{みん}、諸^{しよ}言^{げん}語^ごの^{もの}者^{もの}た^{もの}ち^{もの}は^{もの}み^{もの}な、こ^{かた}の^{かた}方^{かた}に^{かた}
仕^{つか}え^{つか}る^{つか}こ^{つか}に^{つか}な^{つか}った。そ^{しゅ}の^{えい}主^{えい}権^{けん}は^{しゅ}永^{えい}遠^{えん}の^{しゅ}主^{しゅ}権^{けん}で、過^すぎ^さ去^さる^さこ^さと^さが^さなく、そ^{くに}の^{ほろ}国^{ほろ}は^{ほろ}滅^{ほろ}び^{ほろ}る^{ほろ}こ^{ほろ}と^{ほろ}が^{ほろ}
な^{ほろ}い。(ダ^ダニ^ニ7:13-14)

神^{かみ}様^{さま}だ^{ぜん}け^ちが^{しゅ}全^{しゅ}地^{じん}の^{じん}主^{じん}人^{じん}で^{じん}あ^{じん}り、す^{じん}べ^{せい}て^{せい}の^し人^し生^{どう}の^し指^し導^{どう}者^{しや}で^{しや}あ^{しや}る^{しや}こ^{しや}と^{しや}を^{しや}告^{こく}白^{はく}し^{こく}ま^{はく}す。